

～水稻品質向上・収量安定対策～

斑点米カメムシはお米の品質を低下させる斑点米の原因となります

斑点米カメムシの防除をしましょう。



斑点米

7月上旬の発生は、水田内、畦畔雑草ともに多い状況が続いています。

「あいち病害虫情報」より(平成26年7月16日付け)

出穂期に入ると、さらなるカメムシの飛来が予想されます。

対策



愛知県で散見される主な斑点米カメムシ類

○カメムシは水田周辺の畦畔や土手などのイネ科雑草に生息します。
出穂の2週間前までに除草をしてカメムシの棲みかをなくしましょう。
 出穂間際又は出穂後の除草はカメムシを逆に水田に追い込むこととなりますので、注意しましょう。

畦畔や水田内でカメムシを確認したら、
 穂揃期(キラップ粒剤は出穂10日前～出穂期)に薬剤防除を実施し、
 その後も発生が多い場合は7～10日後に追加防除をしましょう。

主なカメムシ類防除剤

平成26年7月10日現在

| 薬剤名 | 希釈倍数または 10a当りの使用量 | 収穫前日数 | 本剤の 使用回数 |
|--------------|----------------------|-------|-------------|
| キラップ粒剤*1 | 3kg/10a | 14日前 | 2回以内 |
| キラップフロアブル*1 | 1000~2000倍 | 14日前 | 2回以内 |
| スタークル粒剤*2 | 3kg/10a | 7日前 | 3回以内 |
| スタークル1キロH粒*2 | 1kg/10a | 7日前 | 3回以内 |
| スタークル豆つぶ*2 | 250g/10a | 7日前 | 3回以内 |

*1 エチプロールを含む農薬の総使用回数:2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

*2 ジメトランを含む農薬の 総使用回数:4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、
 本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)

農薬の散布にあたっては、ラベルの表示事項を守るとともに
 他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。